

# 学びの源泉 三谷 宏治

第 48 号 『正しく決める力』出版記念！

## #なぜ旭山動物園は「大」成功したのか

1 月下旬、約一年ぶりとなる新刊が、ダイヤモンド社から出版される。

題は「正しく決める力」、副題は『『大事なコト』から考え、話し、実行する一番シンプルな方法』だ。

もちろん定量的検証の方法もないので、「一番シンプル」は当社比、であるが。

この本の目的は「若き社会人たちの意思決定および実行力を上げること」だ。

私が経営コンサルタントとして鍛えられ、そして若手たちを指導し、研修を作っていく中で感じたこと。リクルート社に始まり、グロービスやKIT 虎ノ門大学院、早稲田大学ビジネススクールなどで、社会人教育に携わる中で分かったこと。そう言った中で、「一番大事なコト」が書いてある。

それが、『重要思考』『Q&A 力』『喜捨法』だ。

重要なのは絶対的な大きさ（それが議論すべき大事なコト）なのに、ヒトは絶対的な大きさよりも「差」に目が行ってしまふ。

他社より大きい、他社より目立つ、他社より安い……。買う人は、値段なんかどうでもいいかもしれないのに、外見なんて気にしないかもしれないのに、そういった差ばかりを追い求め、そればかりを気にする。それが思考の上でも、議論の上でも最大の無駄だ。

まず気にすべきは、大事なコトかどうか、なのだ。

そして、その最初の視点は「誰が何をしたか」ではなく「誰にとってどうだったか」だ。

例えば、旭山動物園に殺到した人々は、そもそも一体「誰」なのか。

その人たちにとって、大事なコトは何だったのか。その人たちを運んできた企業はどこなのか、その企業たちにとって大事なコトは何だったのか。

それを考えれば、旭山動物園というヒット商品が「大ヒット」（上野動物園級の集客数）となった理由が分かるはずだ。

## #大事なコトから 3 段階で考える

この世の大体のことは、白黒への分類で済むほど単純ではない。かといって複雑に考えすぎると  $3 \times 3 \times 3$  の多次元マトリクスみたいになってヒトの脳がついて行かない。

論理的な構造としては、3~4 段階が適切ではないかと思う。まずは前提として一番大事なコトを決める。これは感情でも主義主張でも良い。

だから論理としてはゼロ段階。

論理構造が 1 段階だけなら、もうここから「答え」（方策）を選ぶことになる。2 段階なら、その前に「大戦略」（方向性）が入るだろう。

これはかなり単純な白黒 二元論（もしくは三者択一）となる。進むのか撤退するのか、右か左か。

しかし、この世の複雑性を吸収するには、「大戦略」と「方策」の中間が必要となる。それが「効用」（中目標）だ。

大戦略を実現するには、何を達成しなくてははいけ

ないのか。逆に、個々の方策は何の役に立つのか。それらが「効用 (Utility)」だ。

これを論理の 2 段階目に挟むことで、効率的な思考が出来るはずだ。

就職で悩む、転職で悩む、そう言うときにも役に立つ。

まず考えるのだ。自分にとって一番大事なコトはなんだろう、と。

「職業」に自分が求めるものは？ ここ数年のうちに実現したいことは？ 最終的に成し遂げたいことは？ 目標とするもの (やヒト) は？

それが定まれば、そこから 3 段階 (大戦略-効用-方策) で考えていけばよい。

## #転職大戦略

転職戦略と言っても、大戦略 (方向性) の選択肢はそう多くはない。

転職するを move、留まるを stay とすれば、stay or move! だけだし、少しひねっても「3 年後を一区切り」にしての stay and move (3 年後の転職を視野にこの 3 年は現職で頑張る)、move and move (理想の職場目指して 2 回の転職を目指す)、move and stay (次の職場でじっくり頑張る) 等、数パターンだ。

まずはこれを決めること。

一番大事なコトを実現する上で、どれが一番正しいのかだけに集中して。

それが決まれば、何をするのかを考えられる。ただそれもいきなり方策に入らないこと。

例えば stay and move 戦略を実現する為に、自分がつけるべき経験やスキルはなんだろうか。それが「効用」となる。

知力か体力か人間力か、専門性か汎用性か、それとも特定分野の経験か。

それを列挙し優先順位をつける。

その上で「方策」を洗い出し、効用と繋げよう。

方策としては、社外の勉強会に精を出す、今日の前の仕事に頑張る、社内で人脈を拓ける、KIT 虎ノ門大学院に通う... 様々あるだろう。

そして各々の効用を考えていく。

## #決めるとは「捨てる」こと

どの段階であっても、なんでもかんでも、はありえない。

どれかに決めたり、絞らなくてはならない。

ヒトも組織も、時間やお金は有限だし、多くに手を出せば出すほど中途半端になる。やるなら 1~2 に絞っての資源の集中投下しかない。

でも、頭のいいヒトの最大の弱点がここにある。

捨てたときに起こるであろういろんな問題が分かってしまうから、どれも捨てられない。そして結局 1 つに絞れない。

いっぱい勉強しているから、いっぱい考えついでしまうから、いろんなことに手を出して、反復練習する時間がない。そして結局 1 つのスキルも身につかない。

捨てるのはコワイこと、イヤなこと。

でも、それを乗り越えない限り決めたことを実行できない。だから、そのコワさやイヤさをどうにかしないとイケない。

かといってこれらに正面から向き合うのも大変なこと。さてどうするか...

コワさやイヤさを相殺するだけの、楽しさやうれしさ、もしくは、強制力を作ることがその答えだ。夢やビジョンを持つことも、その1つだろうし、仲間との約束（による無理強い）もそうだろう。

そうして、今ある何かを捨て、新しい何かにヒトモノカネを投入すること。

それなくして新しい何かの成功はない。

正しく決め、実行するための3つのワザ、『重要思考』『Q&A 力』『喜捨法』

是非、一読あれ。

<http://www.amazon.co.jp/o/ASIN/4478007195>

初出：CAREERINQ. 2009/01/15